

まちづくり仲間づくり自分づくり

平成16年度に第1期志布志創年市民大学が開校し、今年で14年目を迎えました。

これまで、年齢・職業を問わず、市内外から300名を超える学生が（今期は90名）が入学し、学習しています。

今月は志布志創年市民大学について紹介します。少しでも興味を持たれたら、この機会に受講を考えてみてはいかがでしょうか。

志布志創年市民大学とは

まずは『創年』について説明します。「新たな人生に挑戦する、生涯現

役を目指す人々」を創年と呼んでいます。具体的には、実年齢を7掛けして、活動意欲を持つことを推進する言葉です。

次に、志布志創年市民大学の活動目的について説明します。志布志創年市民大学は『まちづくりの方法を学び、実践を目的とする学び舎』です。県内外から、ユニークなまちづくりに取り組む方々を講師にお迎えして、講義をしていただいています。その中から自分のまちに合ったまちづくりのヒントを得て、実践に向けて取り組んでいます。



福岡 強名憲字長  
(全国生涯学習まちづくり協会理事)



原口 泉学長 (志学館大学教授)



志布志創年市民大学の特色

主な学習内容

昨年(第13期)までに組まれたカリキュラムは210項目、そして、講師の数は100名を超えます。

『おもてなしによるまちづくり』『人・文化・歴史・自然など、身近にあるものを利用したまちづくり』の他、多くのまちづくりの形を学んでいます。

また、まちづくりに関する話だけでなく、『メディアでは報道されない、復興支援の苦悩と問題点』『当たり前前に生活ができていくこと』の素晴らしさ』『志布志・鹿児島島の歴史と偉人の活躍』など、教養を高めたり、地域を学んだりする講座も開かれています。

学ぶだけではない

志布志創年市民大学には、学ぶだけではない楽しみもあります。

夏には親睦を深めるために、ピアガーデンでまちづくり懇話会【写真1】が行われます。「今日初めて話

したのに旧知の仲のように打ち解けた」と言う方もいます。

秋にはまちづくりの研修を目的としたミステリーバスツアー(修学旅行)【写真2】が行なわれます。普段は講師を招いての講義ですが「現場に行く」と一段と刺激を受ける」と参加者は言います。

冬にはクリスマスコンサート【写真3】を行い、多くの人に楽しいひとときをプレゼントしています。素晴らしい生演奏はもちろん、特に地元高校生との競演が喜ばれていました。

そして、忘れてはならないのが、志布志創年市民大学初の実践企画の『しぶし子どもフェスティバル』【写真4】です。平成19年に学習した講義、角田子どもフェスティバル(宮城県)を参考に、市民大学の学生が主体になり取り組んでいます。学びを還元するとともに、「創年と子どもたち」を謳う市民大学にぴったりのイベントと言えます。



【写真1】親睦が一気に深まります。



【写真2】日本で唯一の「鮭神社」参拝。



【写真3】心に響く演奏に涙する人も。



【写真4】子どもに大人気のわりばしテッポウ。



子育てが終わり、仕事も落ち着いてきたので、自由に自分の時間を使うことができるようになり、その時間で何かしたいと思っていたところに出会いがありました。

何気なく市の広報紙を見ていたら、ふと、気になる名前がありました。それがこの『志布志創年市民大学』です。私はこの『創年市民大

学』というネーミングに心惹かれました。「ここに入ればきっと何か学ぶものがある」そう思い、入学を決意しました。

今年、志布志創年市民大学の学生になって4年目になります。私はこの創年市民大学に入学して、本当に良かったなど実感しています。その理由は二つあります。

第11期生・学生副代表

熊谷啓子さん(有明町)

一つは「学ぶ喜びを味わえる」とです。私は歴史にはさほど興味がありませんでしたが、原口学長をはじめ何人もの先生のお話を聴くうちに、歴史が好きになっていきました。そして、テレビや新聞で見ることのない、生の知識に触られるのも新鮮で、まだまだ知らないことがあることに気が付かされ、好奇心を刺激されています。

もう一つは、仲間です。私は友だちと一緒に入学したわけでも、勧められたわけでもなく、一人で入学しました。ですが、今は一人ではありません。回を重ねるごとに、少しずつ、自然と仲間が増えていきました。それが本当に嬉しいのです。

私は現在も仕事をしていますので、毎回は受講できませんが、可能な限り受講するようにしています。もしも私のように、「時間があるから何かしたいな」と思ったら、志布志創年市民大学はいかがですか。きっと楽しいですよ。

志布志創年市民大学公開講座

薩摩の原動力となった  
郷中教育と西郷隆盛の秘話

教科書にない西郷隆盛とは——  
薩摩を築いた郷中教育とは——  
西郷隆盛の曾孫が語ります。



2017.9.13(水)  
18:00 開場 18:30 開演  
志布志市文化会館ホール  
入場無料  
※未就学児入場不可。託児所はございません。

講師：西郷隆夫  
(西郷隆盛 曾孫)



2017.12.23 (土・祝)  
13:30 開場 14:00 開演  
志布志市文化会館ホール  
入場無料

3回目になる今年の志布志創年市民大学 Xmas コンサートは、お子様も楽しめるステージも予定しております。詳細は改めてチラシを配布いたしますので、お楽しみに。

問い合わせ先 志布志創年市民大学事務局 099-472-3050



## パパのための ワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス」とは、仕事と私生活とが調和あるいは両立している状態をさします。一人ひとりがやりがいや充実感を得ながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域社会などでも、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択、実現できる社会のことで、今月は、男性目線での仕事、子育てなどワーク・ライフ・バランスについて考えます。

問い合わせ先…企画政策課 男女共同参画推進室 男女共同参画係  
TEL: 474-1111 (内線250・258)

### 仕事も子育ても楽しもう

仕事も子育ても、どちらも充実させたい、どちらも楽しみたい、そんな価値観を持つパパたちが増えていきます。

しかし、「働き盛り」と「子育て盛り」の時期は同時進行することが多いため、現実には仕事の事情で子どもと関わる時間を十分に取れないというパパも多くいます。

子育て期間中には、今しかできないこと、今だからできることがたくさんあり、パパが子育てに関わることで下のようなメリットもあります。

夫婦で話し合いながら、自分らしい子育て期のワーク・ライフ・バランスをデザインしてください。

### 仕事に好影響

- 時間意識が高まり、生産性の向上につながる。
- 情報の共有化により、チームワークが高まる。
- 子育てを通じて視野が広がり、新たなアイデアや企画力が磨かれる。

### 活動範囲が広がる

- 子育てを通じて、自分の住む地域に友だちやネットワークができる。
- 自分の住む地域での活動範囲が広がり、自身のよりどころが増える。

### 家庭が安定する

- 子どもはパパとママの愛情を受けて、健やかに育つことができる。
- 子育ての喜びと苦勞を分かち合うことで夫婦の絆が深まる。
- ママの育児ストレスが減り第二子以降も産みやすい。

### ママが輝く

- 仕事と育児を両立しやすくなり、女性が活躍する場が広がる。
- 「女性の力」が発揮されることで、企業経営にもプラス効果。
- ママが一人で育児の不安やストレスを抱え込むことがなくなる。

### 育児休業を取得してみませんか？

◆ 性別を問わず、育児休業は誰でも取得できます。

育児休業は、子どもが1歳（一定の場合、子が1歳6か月）に達するまでの間、取得することができます。「育児介護休業法」に定められています。

◆ 妻が専業主婦の場合や、妻が育児休業中でも、夫も取得できます。父母がともに育児休業を取得する場合、休業可能期間が1歳2か月に達するまで延長されます。（パパ、ママ育児プラス）

さらに、妻の出産後8週間以内に父親が育児休業を取得した場合には、特別な事情がなくても、再度取得することができます。

母体の回復にとって重要な産後8週間に積極的に育児休業を取ること、は、夫婦の絆を深めることになるでしょう。

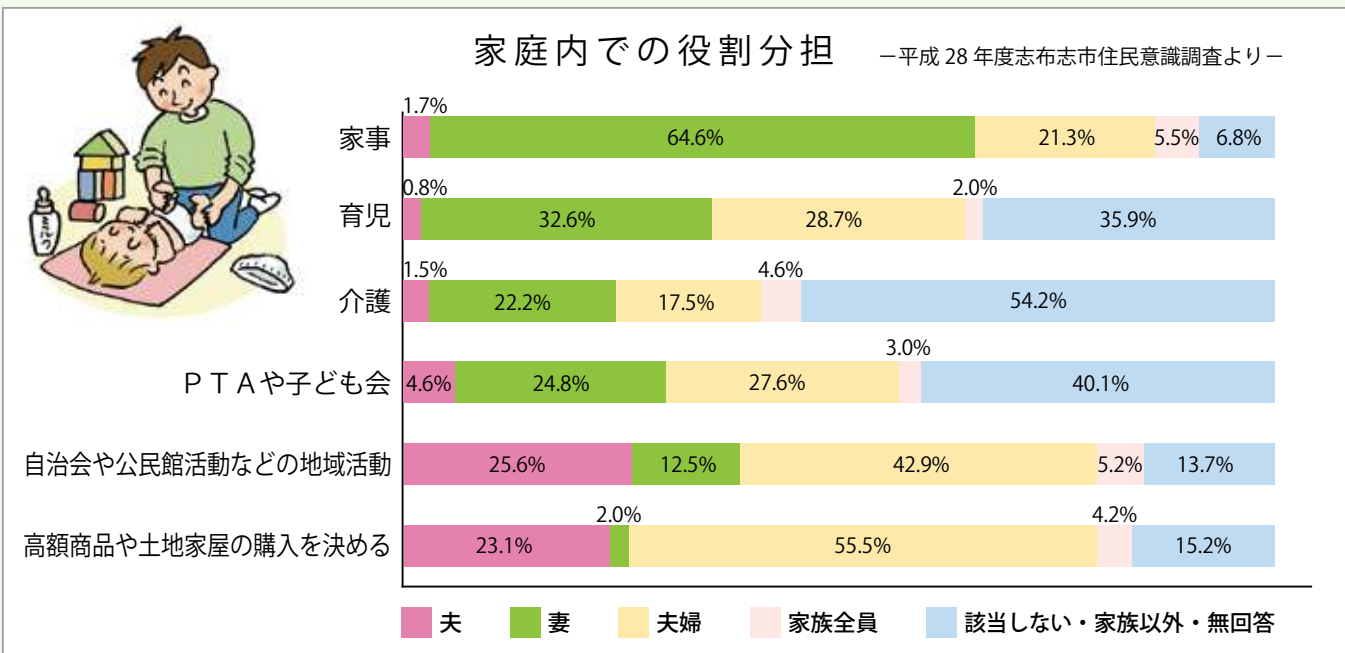
◆ 公的な経済的支援があります。育児休業を取りたくても経済的な不安から踏み切れない人もいます。休業開始前の給料の67%を受け取ることができる育児休業給付金などの所得補償や社会保険料の免除などの経済的支援があります。

### 家事と育児、どれくらいやっていますか？

日本の男性の家事・育児への参画時間は諸外国と比べて短くなっています。6歳未満の子どもがいる家庭では1時間強であるとの調査結果もあります。もちろん、男性も育児休暇を取得したいと考えていますが、実際の取得率は2%程度と低水準です。女性の83%と比べると、やはり大きな男女差があることがわかります。（参考：内閣府男女共同参画局ウェブサイト）

次のグラフは、平成28年、志布志市の「男女共同参画・DV・女性活躍推進に関する住民意識調査」の「家庭内での役割分担」についての調査結果です。やはり、家事・育児は女性の負担が大きくなっています。

しかし、多くの職場で男性も育児休暇が取得しやすくなったり、長時間労働が是正されれば、男性も育児や家事を分担でき、女性も積極的に働きやすくなるのではないのでしょうか。また、家庭や仕事の場以外にもやり甲斐を感じられれば、きっと男性にとっても女性にとっても、より豊かな人生となるのではないのでしょうか。



### イクメンをされている前原さんにインタビューしました

#### ○普段の家事、育児の分担はどうしていますか？

「洗濯やアイロンがけ、交替で皿洗いをしています。育児では、幼稚園への朝の送り届け、お風呂、からだ遊びや寝る前に絵本を読み聞かせています。」

#### ○家事だけでなく育児も、というのは大変では？

「やることは増えますが、夫婦で分担して、夫が得意な育児を見つけて、率先してやると良いかなと思います。大変ですが、子どもの寝顔を見ると疲れも全部吹き飛ばすと思います。」

#### ○子育ての中で意識していることは？

「極力子どもを笑顔で過ごさせてあげることです。笑わせるように夫婦で努め、体を使った運動をしたり、ほめるときに頭を撫でたりハイタッチしたり、小さなことでも良いので、ふれあいの時間を持つようにしています。」

#### ○これからパパになる人に一言お願いします？

「少年時代がもう一度やってくるとあって、楽しみにしてほしいです。子ども向けの場所やアニメに詳しくなったり、イベントに並んだり…一見大変そうに見えますが、大人だけでは絶対に行かない場所に出かけるので、少年に戻ったように楽しんでいます。」

#### ○ママからも一言いただきました

「これからも2人で協力して家事に育児に楽しんでいきましょうね。」

